

2022年度

環境活動レポート

「2021年6月～2022年5月」

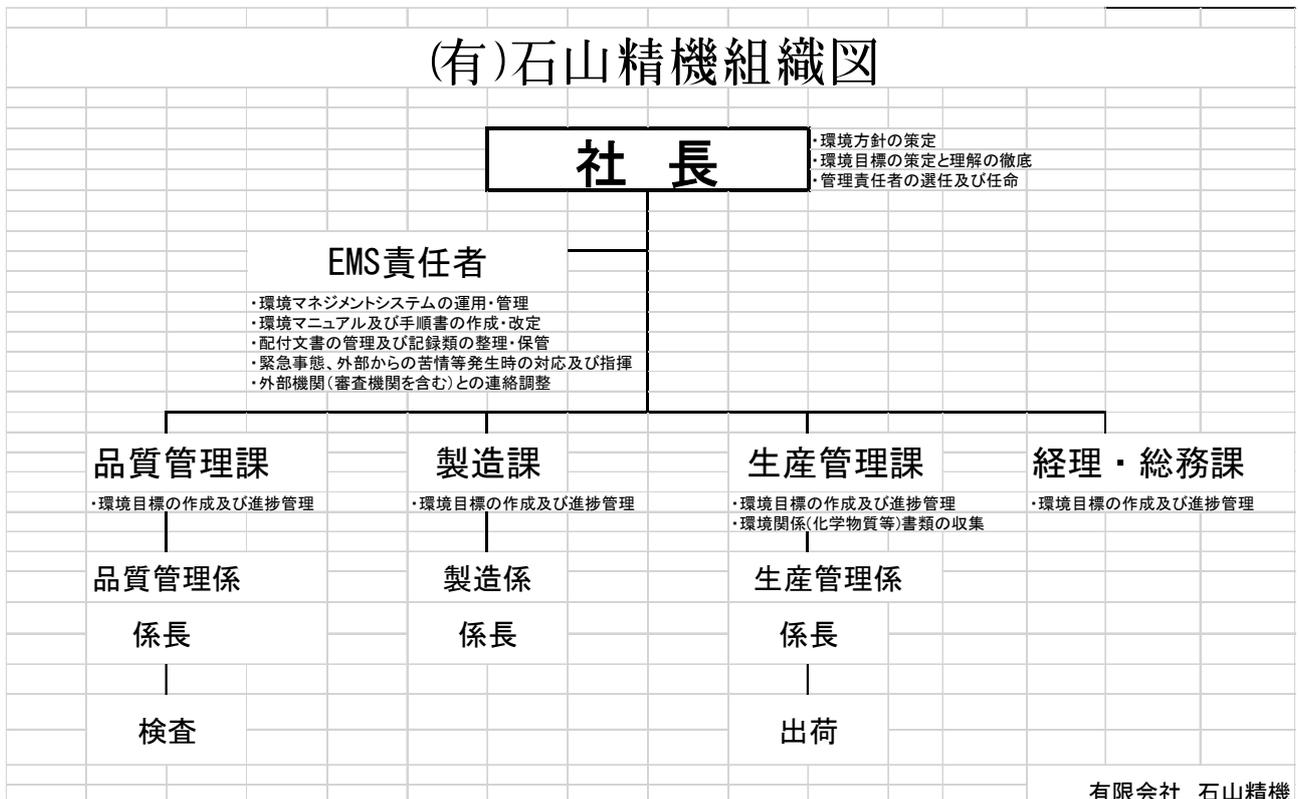
2022年6月1日

有限会社 石山精機

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 : 有限会社 石山精機
 代表者氏名 : 代表取締役社長 石山武司
- (2) 所在地 : 福島県郡山市富久山町福原字戸屋50
- (3) EMS責任者/担当者 : 石山武司 TEL 024-923-5953
- (4) 事業の内容 : カメラ等の光学機器、自動車部品、及びその他精密部品の自動旋盤による切削加工業
- (5) 事業の規模 : 売上高 3.0億円

従業員数	29名
延べ床面積	1,076.3㎡
- (6) 事業年度 : 6月から翌年5月
- (7) 法人設立年月日 : 昭和43年6月
- (8) 資本金 : 300万円
- (9) 対象範囲 : 所在地にある全ての組織・活動
- (10) 実施体制



2. 環境方針

【環境方針】

有限会社石山精機は、様々な製品の精密部品を提供する事により社会の一員として環境の汚染を防止し、資源の有効活用に努め、地球環境の保全を目指し継続的改善活動を図ります。

1. 環境・安全に配慮し、環境保全に適した生産活動に努める。
2. 製造・物流・使用・廃棄等に於いて、環境保全活動の向上に努め継続的な環境負荷の最小化を図る
3. 全ての企業活動に於いて、排出抑制・リサイクルを推進し、省資源・省エネルギー化を目指す。
4. 国、県、周辺地域のみならず、国際社会の環境に関する法律・規制を遵守し、環境汚染を防止する。
5. 環境目的及び目標を設定し、監査を通じて環境マネジメントシステムを継続的に見直す。
6. 環境に関する意識を向上させる為、従業員の教育に努める。
7. 環境方針は組織に関係する全ての人に周知し、一般の人へも開示しいつでも入手出来る様にする。

2012年6月1日発行

2015年6月8日改定

有限会社 石山精機
代表取締役 石山武司

3. 環境目標とその実績

環境目標	目標	単位	2021 年度実績	2022 年度	達成状況
	実績				
二酸化炭素排出量の削減	目標	Kg-CO ₂	402,385 前年度比維持	450,642 R1.5月から1%減減	○
	実績	Kg-CO ₂	394,561	411,006	
一般廃棄物排出量の削減	目標	kg	1,508 前年度比維持	1,492 R2.5月から1%減減	○
	実績	kg	1,090	1,447	
産業廃棄物排出量の削減	目標	リットル	4,200 前年度比維持	4,455 R1.5月から1%減減	○
	実績	リットル	3,700	4,150	
水使用量の削減	目標	m ³	247 30年度比維持	266 R1.5月から1%減減	×
	実績	m ³	232	283	
化学物質使用量の適性管理	目標	kg	該当物質無	該当物質無	○
	実績	kg	該当物質無	該当物質無	
グリーン購入	目標	件	451	100	×
	実績	件	90	51	
工具使用量の削減	目標	円	前年度売上比維持	R 1 年度売上比 1%削減	○
	実績	円	売上比 10%以下 (11.26%)	売上比 10%以下 (10.7%) (¥31,782,446)	

二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は丸紅新電力 2020 年版を使用し、0.542kg-CO/kWh を使用しました。R 6 年度まで同じ係数を使用します。

4. 中期の環境目標（2023年～2025年度）

環境目標	単位	基準値	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO ₂	455,194	446,090 R1.5月から2%減減	441,538 R1.5月から3%減減	436,986 R1.5月から4%減減
一般廃棄物排出量の削減	kg	1,508	1,477 R2.5月から2%減減	1,462 R2.5月から3%減減	1,447 R2.5月から4%減減
廃棄物排出量の削減	リットル	4,500	4,410 R1.5月から2%減減	4,365 R1.5月から3%減減	4,320 R1.5月から4%減減
水使用量の削減	m ³	269	263 R1.5月から2%減減	260 R1.5月から3%減減	258 R1.5月から4%減減
化学物質使用量の適性管理	kg	該当物質無	該当物質無を維持	該当物質無を維持	該当物質無を維持
グリーン購入	件	90	110	115	120
工具使用量の削減	円	32,127,000	31,484,460 R1年度売上比2%削減	31,163,190 R1年度売上比3%削減	30,841,920 R1年度売上比4%削減

二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は丸紅新電力 2020 年版を使用し、0.542kg-CO/kWh を使用しました。2024 年度まで同じ係数を使用します。

基準値は全て 2020 年度の実績を元にしております。

総排水量は計測困難の為、水使用量（上水）で管理しています

- 中長期環境経営目標

2022年度

コロナの反動と思われる好調な受注対応の為、2021年8月に工作機械2台(A-20型)、2021年12月に1台(L-20型)、2022年4月に1台(M-32型)をそれぞれ購入し生産の増強を図った。

5. 環境活動計画及び取組結果と評価並びに次年度の取組内容

環境目標	達成状況	環境活動計画内容	実施状況	評価と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	○	空調温度の適性化 ピーク電力量の抑制 未使用設備のスイッチオフ 不要照明の消灯	○ ○ ○ ○	今期はコロナの影響からの反動で年間を通して好調に推移した。二酸化炭素排出、電気使用量は増加している。
一般廃棄物の削減	○	コピー回数の削減 裏紙の使用 両面コピーの実施 電子機器の使用によるペーパーレス化	○ ○ ○ ○	450kgの増加となってしまった。コロナからの反動で年間を通して受注は好調に推移した。廃棄物の量も増加したが目標は達成できた。
産業廃棄物の削減	○	金属くずの100%リサイクル 作業ミスによる排出量の削減 不適合製品の削減	○ × ×	産業廃棄物の廃油に関しては前年の3,700ℓから4,150ℓと増加した。不良損金に関しては前期3,637千円から5,318千円となり悪化してしまった。
総排水量の削減	○	節水活動の推進	×	今後も継続して活動する。
グリーン購入	○	エコマーク商品の購入	○	グリーン購入は51件へと減少した。
工具使用量の削減	○	使用工具の削減	○	使用工具の削減では¥28,966,030から¥31,782,446と増加したが、売上比率では10.7%となり前年より0.56%削減出来た。
化学物質使用の適正管理	○	含有禁止化学物質と工程使用禁止化学物質の不使用の維持 含有管理・工程管理化学物質の不使用	○ ○	規制対象物質は使用していない。今後も適正管理を行っていく。

6. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

①当社の事業活動において適用される主な環境関連法規制と遵守状況

適用される法規制等	遵守状況
廃棄物処理及び清掃に関する法律	○
振動規制法	○
騒音規制法	○
水質汚濁防止法	○
環境基本法	○
工業用水法	○
P R T R法	○
消防法	○
R o H S 指令	○
化審法	○
E A R規制	○
P F O S 規制	○
R E A C H 規制	○
資源の有効な利用の促進に関する法律	○
ボイラー及び圧力容器安全規制	○

2022年6月1日法規制の遵守状況を評価しましたが、違反はありませんでした。

関係機関からの指摘や周辺住民からの訴訟はありませんでした。

7. 代表者による評価と見直し結果

(1) 個別評価

① 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量は前期の394,561Kg-CO₂から、16,445Kg-CO₂増加の411,006Kg-CO₂となった。電力量は前年度709,952kWから787,858kWとなり77,969kWの増加となった。今期は1年を通して受注が好調で、売り上げ目標の年商3億に近づける事が出来た。結果として二酸化炭素発生量、電気使用量の発生も増加したのと考えられるが、目標の見直しを行っていた事で目標は達成となった。

② 一般廃棄物の削減

結果としては年間の廃棄物量の合計で前年度の1,090kgから1,447kgと約33%の増加となった。前述の通りではあるが、今期は年間を通して受注が好調であり、結果として一般廃棄物の発生も増加したのと考えられる。しかしながら目標は達成している。

③ 産業廃棄物の削減

前年度の3,700ℓから4,150ℓと450ℓの増加となった。前述の通りではあるが、今期は年間を通して受注が好調で大型の工作機械を4台導入している事もあり、結果として廃油の量も増加したのと考えられる。しかしながら目標は達成している。

④ 総排水量(使用量)の削減

バレルの仕事が

前年度232ℓで今年度が283ℓと約51ℓの増加となった。総排水量(使用量)に関しては目標の266ℓも超えてしまい目標未達成となってしまった。考えられる事としては新規受注案件で水を使用するバレル研磨の工程が増えた事が増加の要因として考えている。この新規案件が継続するかは未定だが、継続して節水を努力していく。

⑤ グリーン購入

グリーン購入は目標値の90件に対し51件となった。51件の購入となっているが、グリーン購入は優先して行っているし、必要な物を必要な時に購入している結果だと考えられる。

⑥ 工具使用量の削減

工具の使用量に関しては購入金額からすると前期が2,896万円だったのに対し、今期が3,178万円と282万円の増加となった。ただし年間売上高比率でいうと11.26%から10.7%と0.56%は削減できた。消耗品比率年間10%以下の目標に対しては未達成となってしまったが、対売上比率で見ると削減出来ているので、コロナの反動で受注が急激に回復し年間で好調を維持した状況を見ると及第点ではないかと考える。不良品に対する損金は前年度509万円から531万円と増加してしまった。急激な受注回復に対して生産時の注意力不足も考えられるので不良品に対しての原因の究明と対策を徹底していく。

⑦ 化学物質使用の適正管理

弊社では現在P R T R対象物質の使用は無いが、今後も適正管理を継続していく。

(2) 見直し評価

総括としては、5項目で目標達成となった。

前期の後半から急激に景気が回復し今期は一年を通して受注が好調に推移した。新規設備を4台投資する等生産活動も大幅に増加した為、使用する資源も前期と比べて増加傾向ではあった。前期の後半に感じた“ほぼ半年で去年の1年分の生産活動を行った様な感覚”が今期は年間を通して続いた状況であった。全体的には資源も使用したが、それ以上に売上が増加した為、結果として各項目で目標達成という結果となった様な思いである。目標未達成となった項目に関してはムダを省き効率の良い生産を目指し、資源の使用量を少しでも削減していく意識を持って活動を継続していく。